

新型コロナワクチンについて

COVID-19(新型コロナウイルス)の予防接種の今後についてお話しします。COVID-19の発生から約5年が経過し、当初の混乱から日常生活に溶け込んできた印象があります。

長らく公費負担で行われていた予防接種は、令和6年3月31日に終了し、一つの区切りを迎えました。厚生労働省からは、秋からのCOVID-19の定期接種(一部公費負担)が発表され、65歳以上や60-64歳の基礎疾患のある方が対象となります。

「今さら予防接種は必要なのか？」と感じる方もいるかもしれませんが、実際に外来診療では、最初の数回以降、何年も接種していない方も見受けられます。確かに影が薄くなったとはいえ、碩心館病院でも毎年流行期には高齢者が入院したり命を落とすケースが多数あります。厚労省のデータでも、最近のインフルエンザ以上の脅威が示されています。変異株対応ワクチンの感染予防効果は約50%ですが、接種していれば感染してもほとんど重症化しないと報告されています(効果は約半年持続)。心不全や肺気腫など基礎疾患のある方には、引き続き接種を強く推奨いたします。

また、従来のmRNAワクチンで副反応が強かった方には、インフルエンザワクチンと類似した従来タイプのワクチンも新たに使用可能ですので、ご相談いただければ対応いたします。この冬にもCOVID-19の流行が予想されるため、しっかりとした予防策を講じることが重要です。